

地域づくり / 集落自治の枠組みを問い直す

徳島大学 田口太郎

taguchi@tokushima-u.ac.jp

脱「人口」主義

地域は人口に何を期待するのか？

- ・ 人口がいても元気のない地域／人口が減っても元気のある地域
- ・ 「人口≠地域の担い手」を受け入れる必要
- ・ テーマ・コミュニティ化する「地域づくり」

地域の課題や将来は「人口」によって規定されるのか？

- ・ 人口が増えれば地域課題はなくなるか？
- ・ 人口増加が唯一解か？

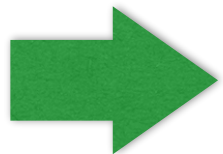
脱「人口」と言いつつも、社会動態に一喜一憂する地方

- ・ 質的要素を考えれば統計的思考から脱する必要？
- ・ 税の再分配を再検討する必要

「人口減少」問題をどう捉えるか？

地域にとって「人口」とは何か？

- ・ 地域産業の労働力／消費者としての「人口」
 - ・ 地方における産業が就労者を確保できない
 - ・ 後継者不在による廃業の増加
 - ・ 各種地方創生事業の担い手としての人員確保の困難
- ・ 地域社会の担い手としての「人口」
 - ・ 集落維持が困難となっている
 - ・ 地域管理に寄与する1次産業就労者の不足
- ・ 地方交付税の算定基準としての「人口」
 - ・ 悪化する自治体財政
 - ・ 生産年齢人口の減少、高齢人口の増加による

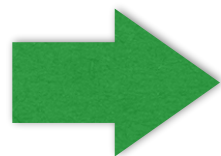


「人口」を目的に応じて考える必要がある

「人口減少」問題をどう捉えるか？

単純に「人口」といっても捉え方は様々であり、政策と関連する「人口概念」を理解して取り組む必要がある

- ・ 産業振興施策としての「人口」→就労者、産業の担い手
 - ・ 入管法改正/外国人労働者確保→多文化共生施策が必要
 - ・ 継業/事業承継
- ・ 地域社会の担い手としての「人口」
 - ・ 移住→地域との関係性、自治、
 - ・ 就農→農地の担い手、周辺農家との農法の関係
- ・ 地域の統計的居住者としての「人口」
 - ・ いかなる意味を持つのか？

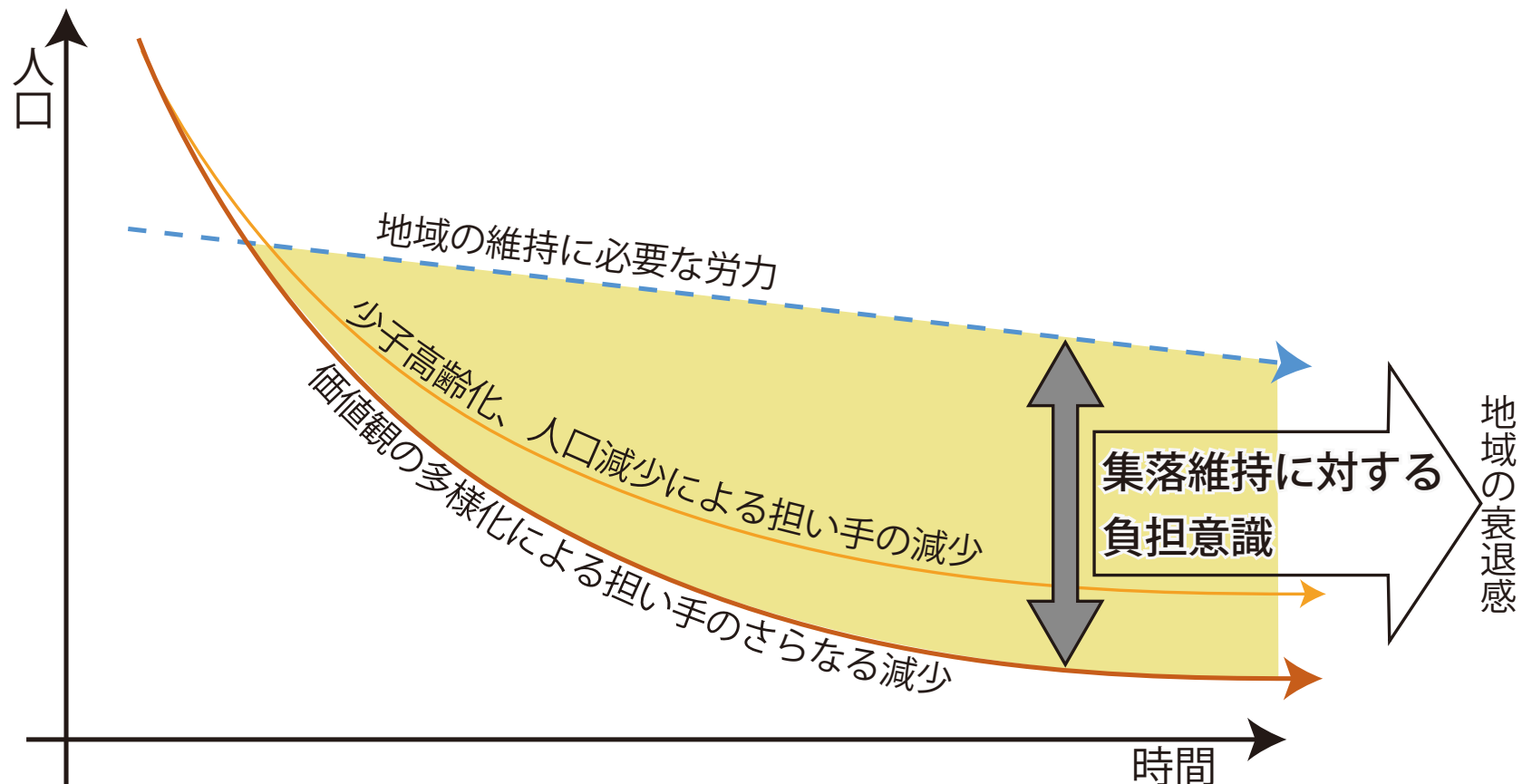


地域における「人口」の意味を考える
「人口」と地域の枠組みを再認識する必要
地域状況と「人口」の関係について考える

地域づくりの課題 / 「地域の衰退感」とは？

必要な自治力と担い手数とのギャップ

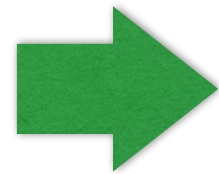
- ・ 財政健全化に向けた行政職員の減少、行政サービスの減少
- ・ 過疎高齢化による住民自治の限界



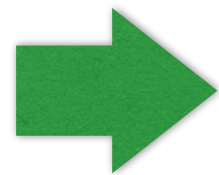
地域の問題と人口減少

地域を維持するのに必要な人苦が確保できないことによる疲弊感

- ・ 若年層の流出による担い手不足
- ・ 価値観の多様化による“担ってくれない”問題

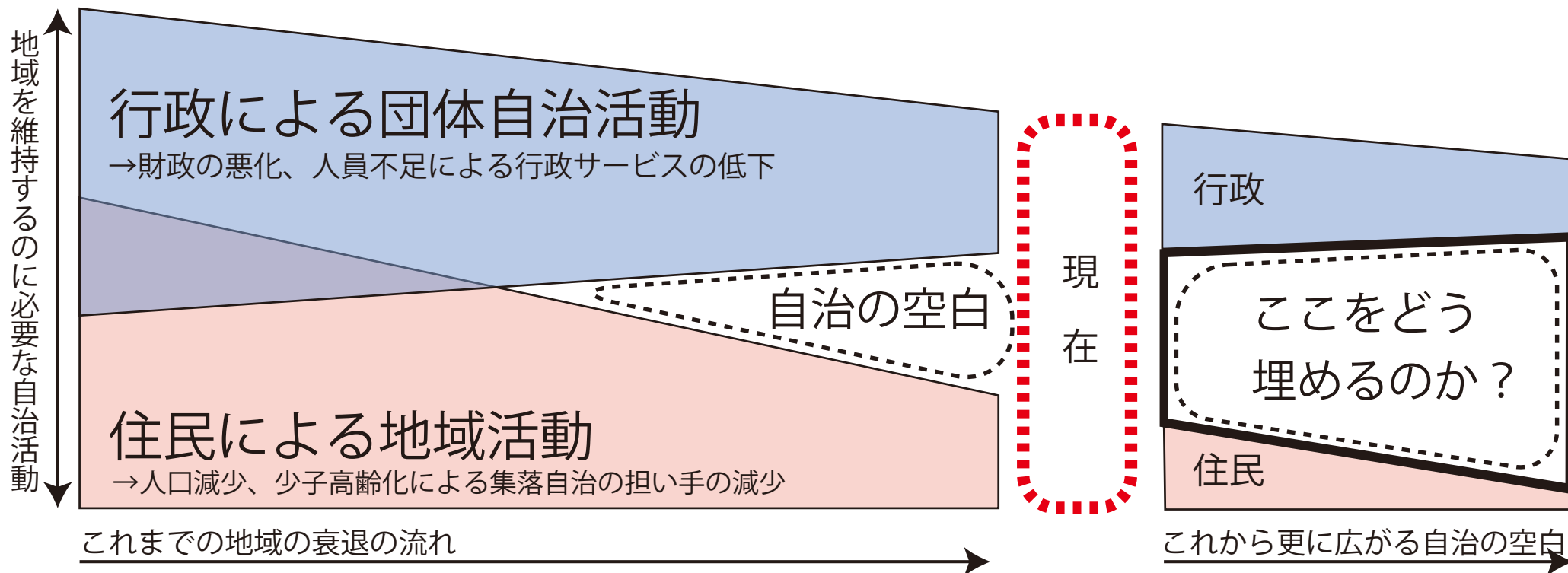


人口減少自体が問題なのではなく、
人口減少によって“**出来なくなる**”が
問題



人口減少しても“**出来る**”が**維持**でき
れば、人口減少自体は問題ではない

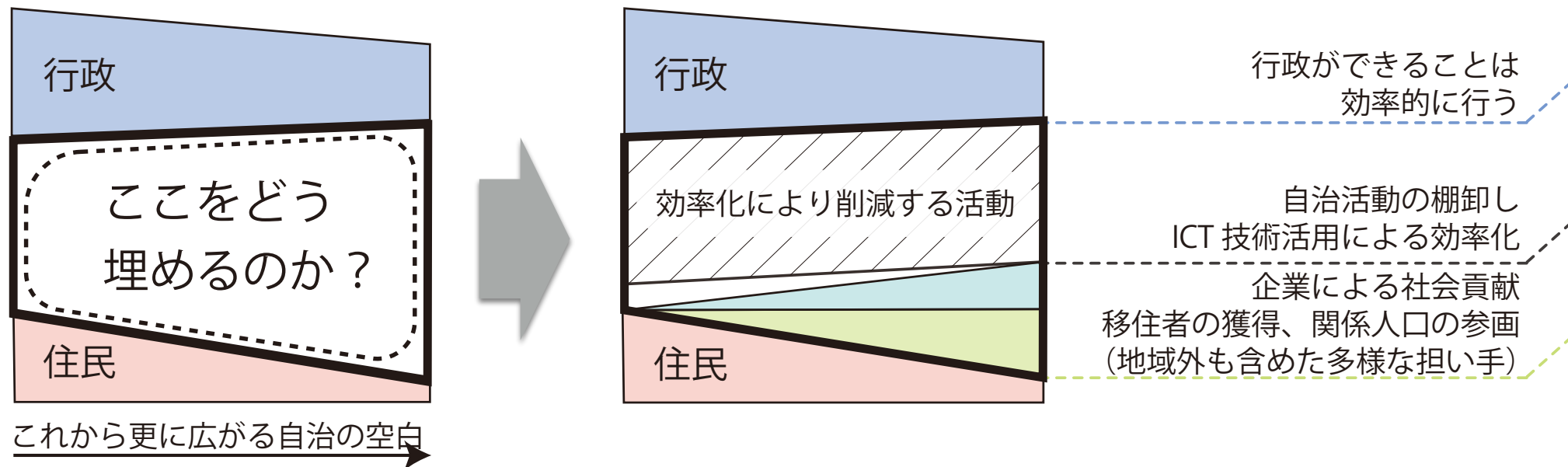
地域における「自治の空白」



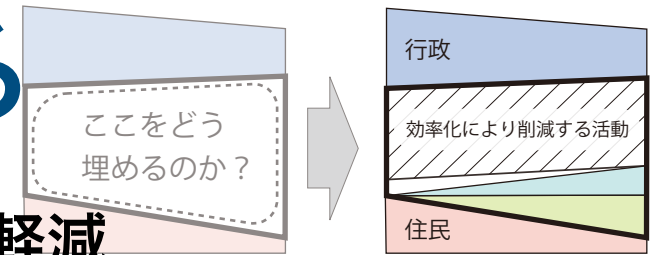
「自治の空白」に対する取組みの必要

「自治の空白」を各方面から埋めていく必要

- ・ 行政はセーフティーネット確保
- ・ 住民活動は縮小
- ・ 新たな担い手の獲得
- ・ 活動の効率化の検討

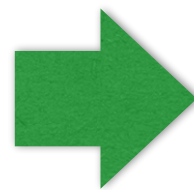
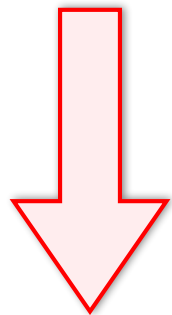
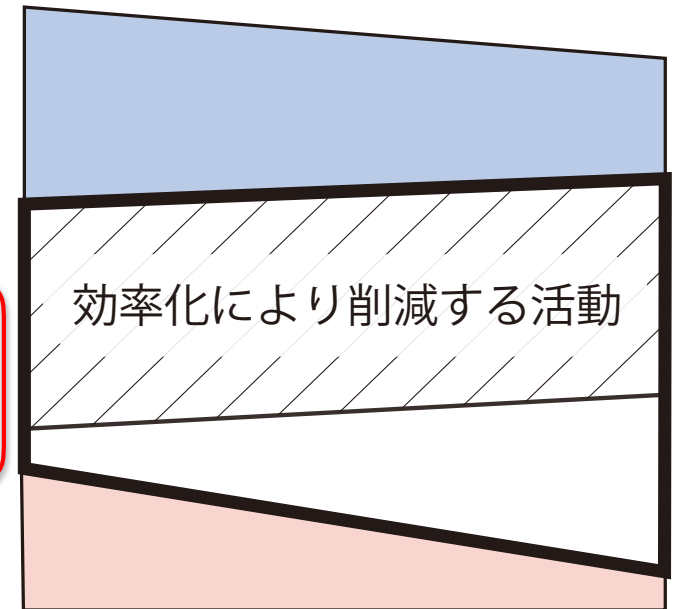


「自治の空白」を埋める



集落活動の棚卸し、ICT技術の活用による負担軽減

- ・ 地域内農地の適正管理
- ・ 管理空間の戦略的縮小
- ・ 粗放的土地管理の検討
- ・ ~~日常生活におけるICT技術の活用~~
- ・ ~~生活実感を損なわないICT技術活用~~



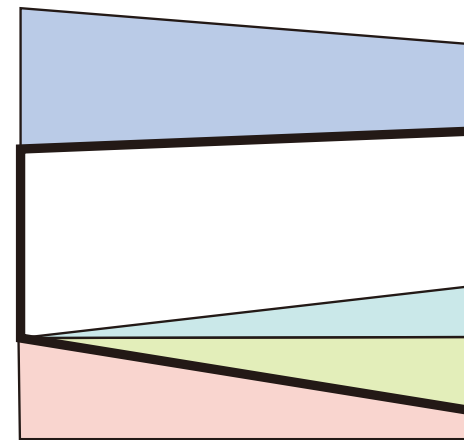
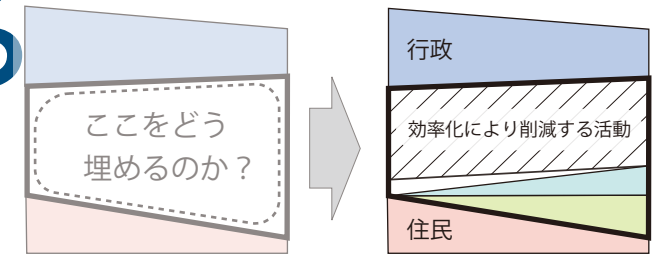
地域としての縮小戦略
生活実感を維持した技術活用

DX時代におけるICTの導入は地域間で開きがあり、
将来的に地域間格差が広がる可能性

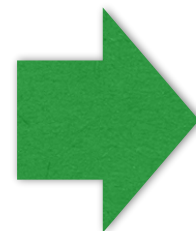
「自治の空白」を埋める

新たな担い手の獲得

- ・ 地域と協働してくれる移住者の獲得
- ・ 地域に貢献してくれる企業の獲得
- ・ 地域を高めてくれる「関係人口」の獲得



企業による社会貢献
移住者の獲得、関係人口の参画
(地域外も含めた多様な担い手)



単純に外部人材を呼べば良い
というものではない
地域の自治力向上に寄与する
外部主体の必要

近くなった農村と都市

意味をなさなくなった「基礎自治体の領域」

- ・ 基礎自治体の「人口」は意味を持たなくなった
- ・ 基礎自治体の領域と生活領域のズレ

道路インフラの整備による行き来の活発化

- ・ 「地域の担い手≠住民」ではなくなりつつある。

コロナ禍によるオンラインコミュニケーションの普及

- ・ 遠方とも用意にコミュニケーションが可能
- ・ 信頼関係を継続させることが可能に？

ライフスタイルの多様化と「関係人口」

価値観の多様化による担い手のアメーバ化

- ・ 地域内外に居る「協力者」「非協力者」
- ・ 地域の担い手は内外を問わないアメーバ型をしている

「関係人口」と地域はどう付き合うのか

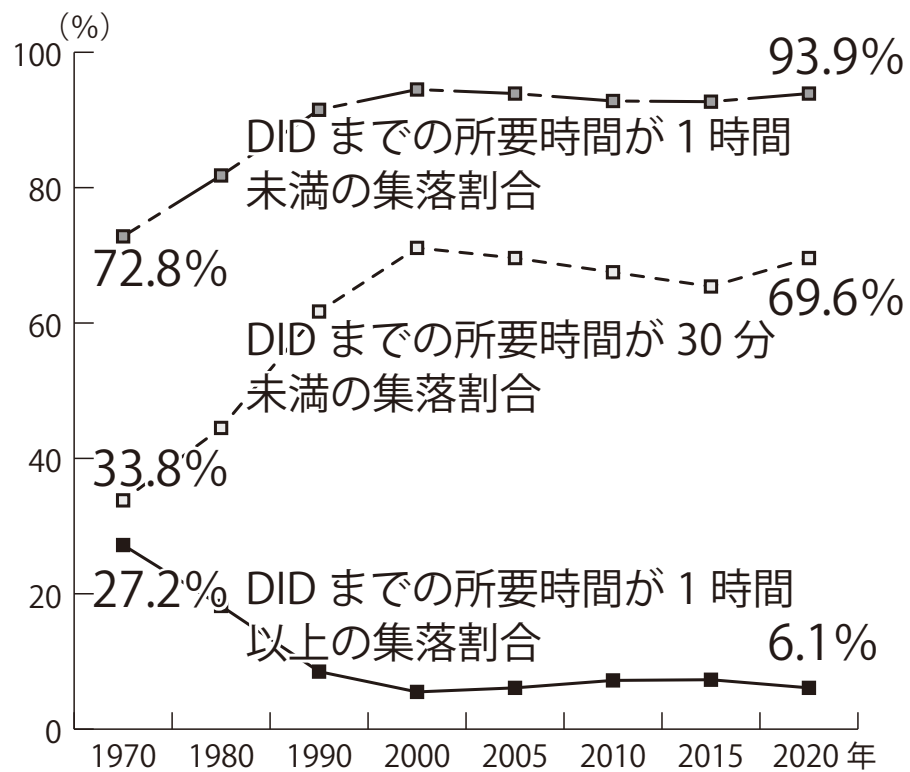
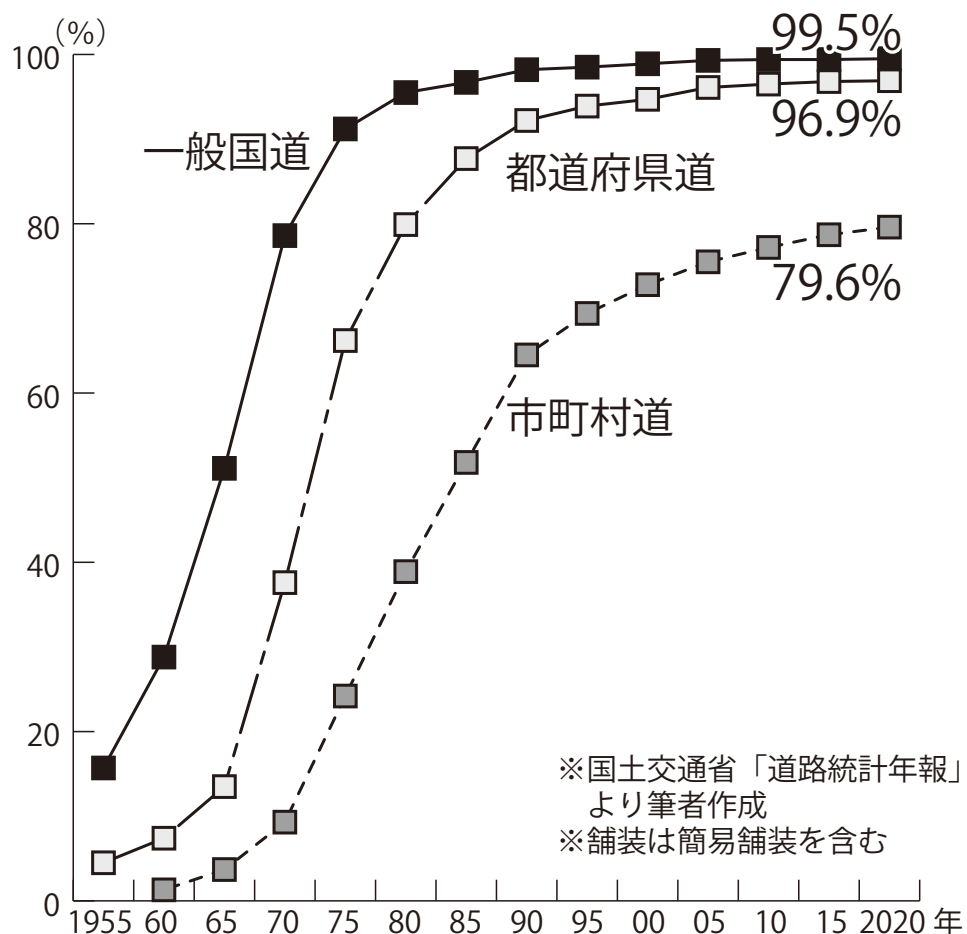
- ・ 多様な人材が地域との関わりを持とうとしている
- ・ 地域として、この動きとどう関係を持つか、維持するか

「信託」を基盤とした関係性によるネットワーク型自治

- ・ 「関係人口」のルーツは「信託市民」「信託住民」
- ・ 今一度「信託」を大切にし、地域が信託できる仲間との協働を考える必要

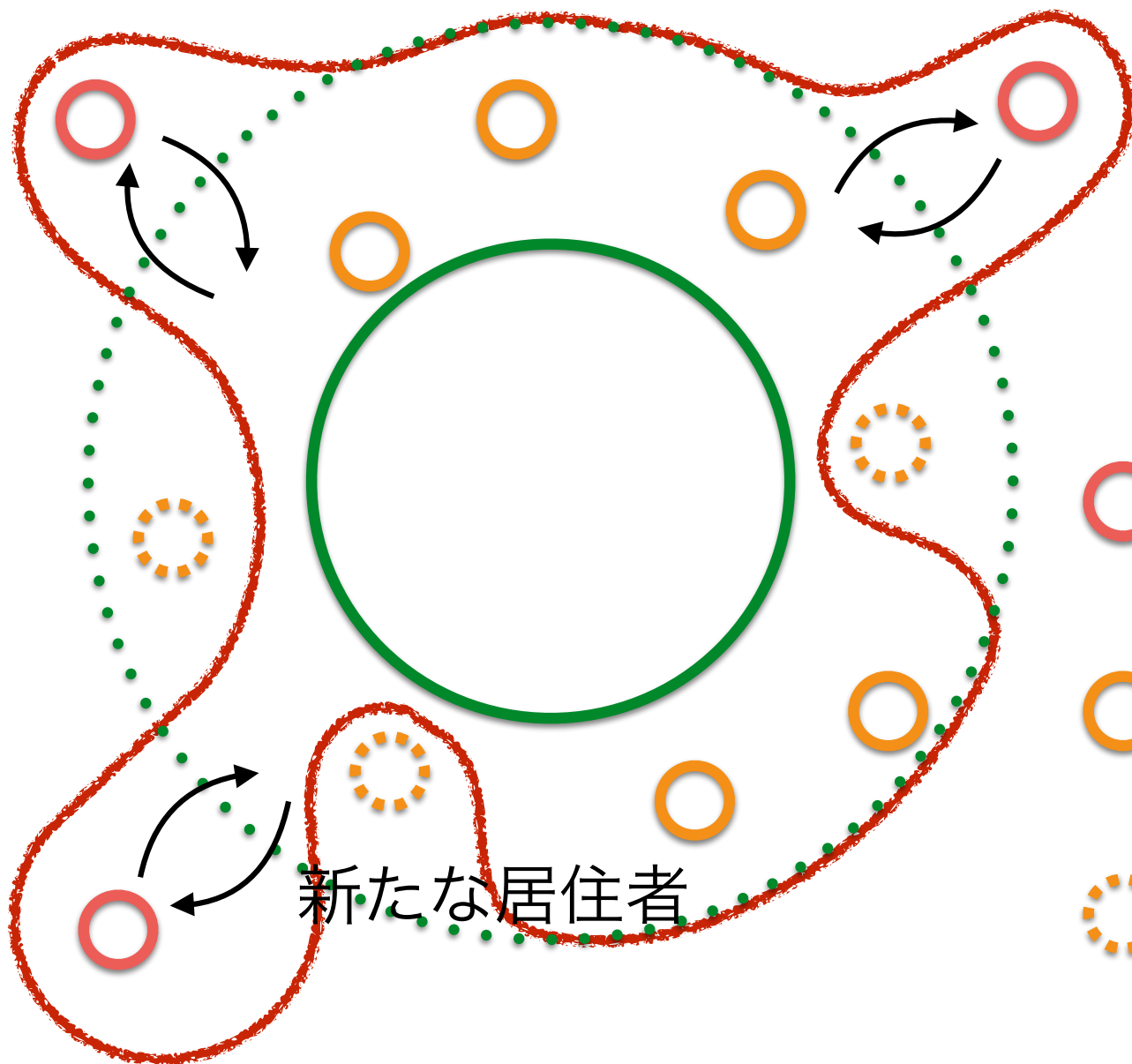
農村とDIDの距離

道路舗装は都市と農村の距離を縮め、行き来を活発化させた



出典：1970年～2020年の農林業センサスより筆者作成

地域の担い手はどこにいるのか？

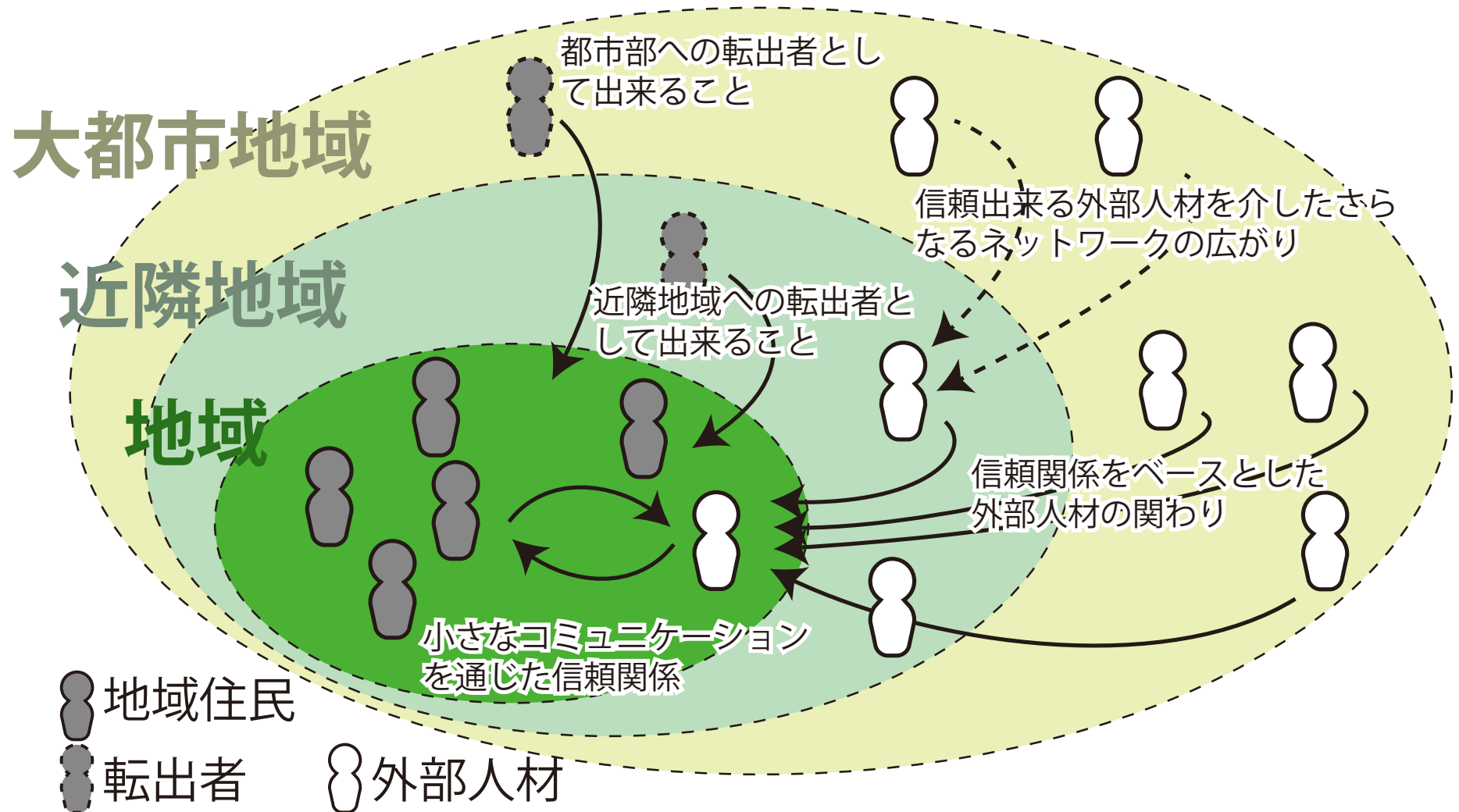


これからの
地域の担い手

- 地域にいないが、
地域に関わる人
- 地域とよい関係を
築く居住者
- 地域とよい関係を
築かない居住者

「ネットワーク型自治」の可能性

- 「信託」関係によるネットワークの広がり



地域づくりのフェーズと支援

